



Title	大型商業施設において創発的な回遊行動を生み出す要因と方策
Author(s)	河村, 大助
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(工学)
Dissertation Number	甲第16853号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16853
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99698
Type	doctoral thesis
File Information	Kawamura_Daisuke_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士 (工学) 氏名 河村 大助

審査担当者 主 査 教 授 瀬戸口 剛

副 査 特任教授 小澤 丈夫

副 査 教 授 森 太郎

学位論文題名

大型商業施設において創発的な回遊行動を生み出す要因と方策

(Factors and Strategies to Generate Emergence-Driven Walk-Around Behavior in a Large-Scale Commercial Facility)

現代社会において商業施設は、人々の生活に欠かすことのできない建築用途であり、多くの人々が日常的に利用している。とりわけ 2000 年以降の日本では、「ショッピングセンター (SC)」や「ショッピングモール (SM)」と呼ばれる大型商業施設が急速に増加し、週末には家族連れなど多様な利用者によって賑わいを見せている。

筆者は 1990 年代以降、実務を通じて数多くの大型商業施設の計画に携わってきた。その経験から、従来の建築計画学では十分に扱われてこなかった要素が、大型商業施設の成功において重要な役割を果たすことを示した。具体的には、「客用通路 (Mall)」における利用者の行動は、入居店舗の配置や駐車場の位置、さらには周辺鉄道駅との関係性などに大きく影響を受け、これらの要素が複合的に作用することで賑わいが形成されることを、完成後の施設利用状況から明らかにした。一方で、このような商業施設における利用者の「回遊行動」の実態を体系的に解明する試みについて、開発者や運営者からのレビューはあまり行われていない。

本研究では、こうした背景を踏まえ、大型商業施設における利用実態のうち、これまで十分に把握されてこなかった側面に焦点を当て、二つの柱から論を展開する。

第 1 の柱は、筆者が回遊行動を生み出す原動力と考える「店舗構成 (MD)」の仕組みを可視化し、その組み合わせや配置計画が、利用者の回遊行動を促す要因となることを明らかにした。得られた知見を踏まえ、各店舗を結ぶ「客用通路 (Mall)」の空間的魅力が回遊をより推進していることを示した。

第 2 の柱は、筆者がかつて計画に携わった大型商業施設において、実際に機材を用いた実測調査を行い、施設内で発生する利用者の回遊行動を実証的に把握した。本調査では、土木・交通分野の調査技術を応用し、歩行軌跡データなど各種データを取得・解析した。さらに、歩行軌跡に行動意図を重ね合わせるなど、複数の要素を統合的に分析することで、新たな行動理解の枠組みを構築した。その結果、これまで十分に知られてこなかった大型商業施設内での利用者の「回遊行動」の実態を明らかにした。

本論文は、これら二つの柱を論述すべく、全 9 章で構成されている。

第 1 章「序論」では、研究の背景と目的を示し、主要な用語を定義した。

第 2 章「研究手法」では、本研究の進め方について示した。

第 3 章「店舗構成 (MD) と客用通路 (Mall)」では、第 1 の柱に関してこれら二つの要素の相互関

係を整理し、続く第4章および第5章の前提条件を示した。

第4章「店舗構成 (MD)」では、筆者の実務経験をもとに、利用者の回遊行動を促進する店舗配置手法を解明した。アメリカおよび日本の大型商業施設を対象に、時代的変遷を踏まえた比較分析を行い、多様な店舗構成が利用者の活発な回遊を生み出す要因となることを示した。

第5章「客用通路 (Mall) の空間構成」では、店舗を結ぶ通路空間の特性を4章で得られた視点から分析し、そこから、客用通路 (Mall) の環境デザインと店舗構成 (MD) とが互いに共鳴し、施設訪問者の回遊行動を生み出していることを解明した。

第6章「回遊行動の調査手法」では、第2の柱について論述すべく、筆者が担当した実際の大型商業施設を対象に、実測調査の手法と収集データの加工、展開事例を示した。

第7章「回遊行動軌跡の分析」では、得られた歩行軌跡データに行動意図を重ね合わせ、客用通路 (Mall) と店舗構成 (MD) などの複合的な要素を統合的に解析する新しい手法により、利用者行動を明らかにした。

第8章「各種データからの回遊分析」では、歩行軌跡以外の利用者行動の実態データを活用し、回遊行動の詳細を解明した。

これらの分析の結果、利用者の行動は「客用通路 (Mall)」の空間構成といった建築的要因のみならず、利用者同士の相互作用によっても誘発されることが明らかになった。これは、本研究の主題である「創発的な回遊行動」の存在を裏付けるものである。

第9章「総合考察・結論」では、創発的回遊行動を生み出す要因を抽出し、本研究対象施設での「回遊行動」を定義した。それらを創発させる建築計画の方策へ還元することを示した。本研究で得られた知見は、大型商業施設にとどまらず、都市の歩行者空間やオープンスペースの計画に有用な知見を与えるものである。

これを要するに、本研究は、わが国における代表的な大型商業施設を対象に、店舗構成 (MD) と回遊性の関係を明らかにするとともに、商業施設内の空間構成とそこで行われる利用者行動の関係を詳細に調査し、両者によって創発的に生み出される回遊行動に関する知見を得たものであり、都市デザイン学、商業建築計画学に貢献するところ大なるものがある。よって著者は、北海道大学博士 (工学) の学位を授与される資格あるものと認める。